

二〇一七年三月一〇日

窓おぼろ看取りの母の手を握り
島と島つなぐ吊り橋芽木の風
棺の汝れ寒紅さして笑むごとし
菜の花に潮風通ふ分教場
春宵やほつほつと星空に増ゆ
梅匂ふ鬼貫の碑に見えけり

やよい
なつき
ぼんこ
なつき
まゆ
豆狸

二〇一七年三月九日

汝れ悼み涙こぼるる春ひと日
うららかやデイスサービスでネイルされ
春愁や友の急逝諾へず
万歳の格好をして物芽出づ
すれ違ふフェリーの汽笛冲朧

明日香
やよい
せいじ
よし女
なつき

二〇一七年三月八日

観音の千手ひろげし春の空
春光を呑むぞと鯉の大口

ぼんこ
せいじ

二〇一七年三月七日

池辺りを綴るがごとく菖蒲の芽
花待たず永久の別れとなりにけり
蝌蚪生れて千切れんばかり尾を振れり

ぼんこ
満天
よし女

二〇一七年三月六日

春の鴨とゆきかくゆき陣なさず
靴跡に起ち直りをる犬ふぐり
予備校の幟はためく春風裡
釣具屋の魚拓自慢や水温む
地面掘る犬の鼻先地虫出る
黒髪の艶は褪せずよ古雛

さつき
ぼんこ
まゆ
宏虎
豆狸
なおこ

二〇一七年三月五日

尾を振るは命の証蝌蚪生まる
山笑ふ前のパトカー追ひ越せず
梅林の香ののぼりくる高見台

さつき
ぼんこ
あさこ

二〇一七年三月四日

紙漉夫近寄りがたき背中かな
枯葦の水面を見つめ鷺静止
東風の坂サリーの裾をひるがへし
朱の橋を渡り梅林展けけり
幔幕に梅東風はらむ野点かな

さつき
ひかり
菜々
こすもす
なつき

毎日句会みのる選・二〇一七年三月一二日